



## 2021年も終盤



過ごしやすい季節となりました。皆様にはコロナ禍のこの1年、ご苦勞の多かったことと存じます。世界的にはコロナ対策とともに東京オリンピック・パラリンピックが開催された歴史に残る2021だったかと思えます。引き続き感染対策をして、実りの秋を前向きに過ごしたいものです。さて、スマイルゆいは開業して10月で19年目になりました。ケアマネジャー5名で支援にあたっております。医療機関、施設の皆様にもお力添えをいただき、多くの方と手を携えて利用者様を支援させていただきました。感謝申し上げます。今年も介護保険の改定があり、内容の習得に努めております。今後も多職種連携で皆様方のお力をお借りして精進してまいります。起業当初、地域貢献も謳い地域で相談会を開催したこともありました。地域の高齢化も進み、改めて下記のようなミニセミナーを敷戸校区の皆様にお届けすることとしました。参考までにご紹介させていただきます。

## 高齢期の課題ミニセミナーのご案内

主催：居宅介護支援事業所スマイルゆい  
 対象者：どなたでも  
 日時：毎月第3火曜日 10:00～11:00

| 日時        | テーマ                      | 講師      |
|-----------|--------------------------|---------|
| 12/7 (火)  | 介護保険サービスについて<br>介護施設について | 介護支援専門員 |
| 12/21 (火) | 相続について                   | 司法書士    |
| 1/18 (火)  | 介護予防・健康相談                | 保健師     |
| 2/15 (火)  | 不動産（空き家対策）について           | 宅地建物取引士 |
| 3/15 (火)  | 終活（葬儀）について               | 葬儀プランナー |



## 大分市の森林セラピー体験のご紹介

気候が良くなりました。高齢期に近い私としては、山登りは自信がないので、このような体験の案内に興味があります。お若い皆さんもいかがでしょう。大分市のホームページで森林セラピー体験を覗いてみてください。

- ① 森林セラピー体験ツアー-in平成森林公園 日時：11月28日（日）
- ② 森林セラピーKIDS！ 日時：11月13日（土）
- ③ 森林セラピー個別案内  
 家族友人など少人数グループで希望の時間・コースで申し込みます。  
 3コース：高崎山、霊山、おしどり溪谷

→詳細は大分市ホームページをご覧ください。



## 夢のような認知症治療薬「アデュカヌマブ」…

9月21日は世界アルツハイマーデーでした。先日、インターネットの某サイトで「かかりたくない病気」についてアンケートを行った結果をみかけました。少し前は「がん」がNo.1だったようですが、今年の結果は、「認知症」がNo.1となっていました。認知症については、色々とメディアでも取り上げられるようになり、関心が高くなっています。認知症になると、生活に色々と支障を来すようになり、つらい日々を過ごさなければならないと考える人も多くいることと思います。

そんな中、アメリカで夢のような認知症治療薬「アデュカヌマブ」が承認されたとの報道がありました。日本国内でもエーザイなどが承認申請に動き、早ければ今年の9月にも、と言った話も聞かれていましたが、未だ承認には至っていません。この「アデュカヌマブ」は4wに1度の点滴治療、アルツハイマー型のMCIや認知症の初期に効果が高いと言われていますが、1回あたり47万の費用がかかると言われています。例えば治療期間が2年であったとした場合は1千万もの費用が必要であり、とても高額であることから、保険適用となると、財政を圧迫することが必至であるため、国がどのような形で承認するのか思案のしどころだと思われます。費用面を考えると、認知症の方への標準治療とするにはハードルが高そうで、まさに夢のような認知症薬だと言えるのかもしれませんが

## 「最期は自宅」をかなえるには「リビングウイル」が大事 家族は看取る覚悟を

住み慣れた家で最期を迎える「在宅死」。コロナ禍で病院での面会が制限されて家族と会えないことから、「自宅で最期を迎えたい人」が増加しているとの事。自分は最期をどこで迎えたいか、終末期に受けたい医療や受けたくない医療について判断力があるうちに意思表示をしておく“最期の覚え書き”こと「リビングウイル」を残しておくが良いようです。「リビングウイルは法的な効力はありませんが、意向を汲むことは出来ます。文章化しなくても家族やケアマネジャー、ヘルパーなど周囲の人に、折に触れて最期の希望を伝えておくが良い。希望を伝えておかないと理想は実現しづらい」と、さくらクリニックの桜井隆院長は話しています。

在宅療養を支える家族側としては、看取る覚悟、具体的には予測される体の変化、死にゆく過程を事前に知っておくことで、状態変化に慌てふためいてパニック状態になったり救急車を呼んでしまうことなく、死にゆく人を穏やかに見送ることができると思います。

仕事柄、在宅での看取り支援を行うこともあります。数年前、癌で余命1ヶ月と診断されたAさんは「少しの間だけでも、家で過ごしたい」と希望し、家族の協力もあり病院を退院しました。退院する際に、家族は「いよいよ悪くなった時は病院で」と自宅での看取りは不安があり、希望されませんでした。しかし、在宅での生活が始まって、本人が入院中には見せなかった笑顔を見せるようになると、家族も少しずつ、「このまま家で過ごさせたい」と思うようになり、それを後押しするように、毎日訪問する看護師が、これから起こりうる体の変化や対応法などを家族に丁寧に説明し、死に向かい行く人へどのように接したら良いのかを伝授するとともに一緒に自宅での看取りを支え、最期は家族の見守る中、穏やかに逝かれました。

死は誰にでも訪れるもの。最期を迎える時、自分はどうしたいのか…元気な内から考えていく事も大切なことかもしれません。



### 【介護に関するお問い合わせ】

居宅介護支援事業所 スマイルゆい

☑住所：〒870-1103 大分市敷戸西町1-3 ミスチャーハウスえん2F

☑TEL：097-504-7858

☑FAX：097-504-7848

☑E-MAIL：furumura@wonder.ocn.ne.jp

### 編集後記



事務所の傍に保育園があって、毎日、園児たちが元気に運動会の練習をしている声が聞こえてきます。最近ではコロナの影響で、運動会開催にも影響が出ているようですが、私が過ごした昭和たった中の運動会は、家族全員で応援に出掛け、近所の人と大きく輪を作ってお弁当を食べたりと特別な日であった思い出があります。

運動が苦手だった私は、運動会があまり好きではなかったのですが、母が作るお弁当は、楽しみでした。